

松保護士というもの

松保護士 関 敏之

私が松保護士を知るようになったのは樹木医資格取得後のことでした。樹木医資格取得のために筑波で2週間の研修を受けますが、そこで感じた自分の知識の少なさに焦りをもったことが始まりで、その後多くの勉強会や研修会、緑化センターの講座などにも参加しました。そのような場で先輩樹木医に「松保護士っていう資格があって、取っておいて損はないよ」と勧められました。

松保護士は、マツに関して幅広い知見や知識、技術を有する専門家で、平成29年4月現在、512名の松保護士が活躍しています。また、平成29年4月には、一般社団法人日本松保護士会が発足しています。

さて、私が資格取得のためにどのような準備を行ったかといえば、マツ枯れのメカニズムや、マツ枯れの判定方法などを簡単に調べた程度でありました。というのも、樹木医資格保有者は「松保護士講習会受講者選抜試験」の免除という大きな利点があったからです。

それでも、「講習会」の受講前は「そこそこの勉強はしたつもり」になっていましたが、実際に講習に入ってみると、事前に調べていたことの浅はかさを実感させられました。マツ枯れの歴史背景をはじめとして、詳細なメカニズム、診断方法はもちろんのこと、最新の知見なども講師から御教示いただき、「さすがマツに関してはスペシャリストな資格だなあ」と改めて驚かされました。

マツ枯れ(マツ材線虫病)について見識の低い業者が多く、マツ枯れをよく理解していないために大事なマツを枯らしてしまう場面をよく見聞しますが、周りの同業者にこの資格取得を勧めると、「松保護士なんて仕事あるの?」という答えが返ってきて、皆あまり乗り気ではありません。

私はいつも「資格が仕事を寄せてくるのではなく、今の仕事にどれだけ資格を生かせるか?」と考えており、

これはこの資格についても同じだと考えています。

松保護士たちは、マツのことに限っては殊更に特殊な知見を有しており、この知見は十分に普通の業務に生かすことができるものだとは思います。

松保護士を受験する人の職種としては樹木医、造園業、森林組合関係者、薬剤関係者、役所関係者と、実に他分野からの参加があります。

さまざまな職種からの参加により、マツ枯れの情勢について、薬剤の流通や効果について、新しい知見や症例について、マツに関するほかの勉強会の情報など、多くの情報が共有できるネットワークが生まれます。

私自身も私の会社でマツ枯れ対策工事の施工や対応を、そのネットワークの中で相談しながら行うことがあります。松保護士としてマツ枯れやマツに対して共通の理解があるからこそ相談もスムーズにいくものだと感じています。

私の今後としては、マツ枯れに関して理解の低い人たちに対してマツ枯れのメカニズムや防除の適切な方法、時期などを広く伝えていきたいと考えています。

同時に、NPO法人森のライフスタイル研究所という団体で東日本大震災の津波被害を受けた千葉県九十九里の海岸林再生のためにボランティア活動でマツを植えています。

海岸林の再生は年月のかかる作業であり、長い期間にわたり松保護士の知識が必要とされます。

松保護士ネットワークと実際のフィールドを活用しながらマツを育てていき、参加者の皆さんに白砂青松の海岸林の素晴らしさを伝えていければと考えています。

松保護士という資格は、「マツ」に特化した特殊な人たちが集まる、特殊な資格であることは間違いなく、ゆえに資格取得後の有用性も、これまた間違いのないものです。